

感染症についてのお知らせ



墨田区保健所 保健予防課 感染症係 区役所3階
電話 03-5608-6191(直通) FAX 03-5608-6507

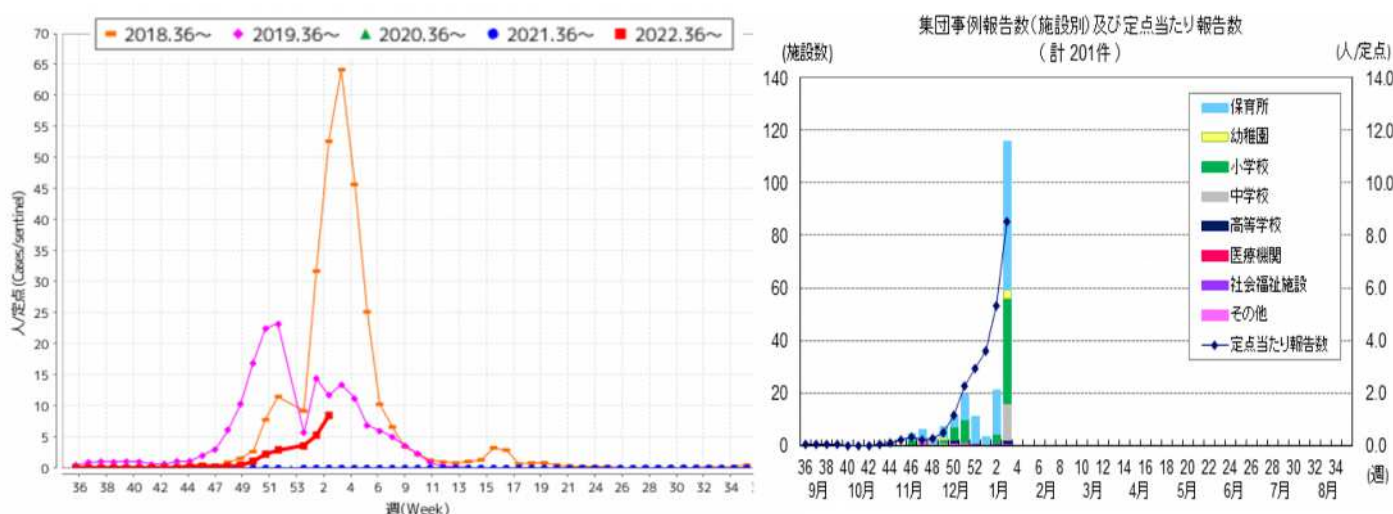
令和5年
2月号

東京都内の感染症流行情報

インフルエンザが流行シーズンに入りました (R4年12月22日東京都福祉局報道発表)

第3週(1月16日~1月22日)では、インフルエンザの定点当たり報告数が8.50と増加しています。

東京都内における定点当たり患者報告数・集団発生事例報告数 2023年1月22日(第3週)まで



都内のインフルエンザ定点医療機関からの第50週(12月12日から12月18日)の患者報告数が、流行開始の目安となる定点当たり1.0人を超えました。インフルエンザは例年12月から3月にかけて流行します。3年ぶりの流行シーズン入りとなり、今後本格的なインフルエンザの流行が懸念されるため、注意が必要です。

区内の保育園や小学校でも、インフルエンザの集団発生があります。疑いがある場合は、無理をせずお休みしましょう。

インフルエンザ対策のポイント

ワクチン接種(かかりつけ医と相談)

こまめな手洗い

必要な場面でのマスク着用

休養・栄養・水分補給

咳エチケット

適度な室内加湿・換気



(東京都健康安全研究センター「東京都インフルエンザ情報」より引用)

さらに、今年は新型コロナウイルス感染症との同時流行にも注意が必要です。

新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行に備えましょう

ワクチン接種をご検討ください

新型コロナワクチンの接種の詳細はこちら

「墨田区ホームページ 新型コロナワクチン」



発熱した場合に備えて備蓄しておきましょう（食料品、日用品は概ね1週間分を備蓄しましょう）

医薬品などの例

市販の新型コロナ抗原定性検査キット 市販の解熱鎮痛剤 体温計 手指消毒剤など

食料品の例

○水分補給できるもの 体調不良時に食べやすいもの
レトルト食品、缶詰、即席スープ、冷凍食品など調理せずに簡単に食べられるもの

感染が疑われる場合の対応 重症化リスクの高い方と低い方で発熱やのどの痛み等の症状が出た際の対応が異なります

重症化リスクの高い方

高齢者（65歳以上） 妊婦 基礎疾患のある方 小学生以下の子ども

発熱やのどの痛みなどの症状が出たら、速やかに発熱外来を受診しましょう。子どもの症状は年齢などによって様々ですので、かかりつけ医や近くの小児科医にご相談ください。

重症リスクの低い方

発熱やのどの痛みなどの症状が出たら、ご自身で新型コロナ抗原検査キットで検査しましょう。

陽性だった場合

東京都陽性者登録センターに登録して自宅療養してください。

体調の不安や療養中の困りごとは、うさば東京 0120-670-440（24時間対応）へ相談してください

陰性だった場合

体調不良が続くときは、自宅療養をお願いします。

症状が重い時など、受診を希望する場合は、かかりつけ医・発熱外来の受診や電話・オンライン診療をご検討ください。



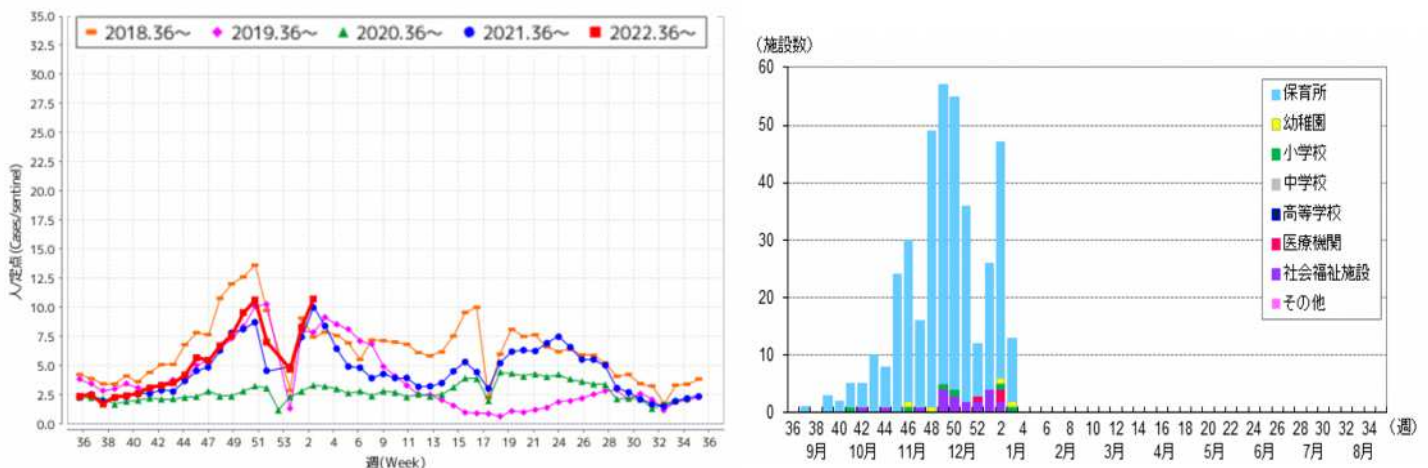
「東京都陽性者登録センター」



「うさば東京」

ノロウイルス等による感染症胃腸炎にご注意ください。

東京都内における定点当たり患者報告数・集団発生事例報告数 2023年1月22日（第3週）まで



墨田区では11月以降、保育園での集団発生が続いています。一部の保育園ではノロウイルスが検出されました。集団生活を送る場所では、日ごろから感染対策に留意し、施設内で感染者が確認された場合は速やかな感染防止対策が必要です。

最も有効な感染予防対策は手洗いです。流水とせっけんで手を洗いましょう。

便やおう吐物を処理するときは、使い捨ての手袋、マスク、エプロンを着用し換気しながら行いましょう。

ノロウイルスには、アルコール消毒剤が効きにくい傾向にあります。**次亜塩素酸ナトリウム（塩素系の漂白剤）**を使用しましょう。

保育所や学校、高齢者施設などの社会福祉施設において、嘔吐や下痢症状のある人の人数が通常を上回る場合は、保健所にご連絡ください。

このお知らせは、東京都感染症情報センター（<https://idsc.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/>）の情報及び東京都健康安全研究センターが集計を行った「東京都感染症発生動向調査週報」（<https://idsc.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/weekly/>）の情報をもとに作成しています。